

大学史研究会事務局

〒562-8558 大阪府箕面市栗生間谷東 8-1-1

大阪外国語大学外国語学部 進藤 修一研究室内 大学史研究会

TEL/FAX 0727-30-5355 EMAIL sshindo@post01.osaka-gaidai.ac.jp

大学史研究会事務局員（五十音順）

阿曾 昭 明裕（名古屋大学）
進藤 修一（大阪外国語大学）
福石 賢一（九州女子大学）

大川 一毅（早稲田大学）
橋本 敏市（東北大学）
吉村 日出東（明治大学）

大学史研究通信

第32号、2002年9月30日（火）

大学史研究会

第32号の内容：新入会員・大学文書館ニュース・事務局からのお知らせ・編集委員会からのお知らせ・編集後記・大学史研究会事務局員一覧

新入会員

爲政 雅代（同志社大学非常勤講師）

専門領域： ドイツ現代史、ドイツ政治教育史、戦後ドイツ政治

大学文書館ニュース

「ヴィーン大学のマトリッケル編纂事業」

早 島 瑛（関西学院大学）

前号の「大学文書館ニュース」で触れたように、ヴィーン大学アルヒーフはシュテファンス・ドームに近く、交通の便がすこぶるよい。スタッフは館長のミュールベルガー博士(Hofrat Dr. Kurt Mühlberger)を含めて専任アルヒヴァールが7名、非常勤職員が2名、合計9名である。アルヒーフは全体で3,500平方メートルの広さをもち、所蔵する史料は9,000メートル(Regal-Laufmeter)、いまのところ閲覧室の定員は12名である。

ヴィーン大学の歴史は古いがマトリッケル編纂事業は比較的新しい。その理由の一つに19世紀のヴィーン大学で通史の刊行に重点がおかれたことがある。最初の本格的なヴィーン大学史は1854年に刊行された2巻本の「キンク」(Rudolf Kink, *Geschichte der kaiserlichen Universität zu Wien*, 3 Teile in 2 Banden, Wien 1854)であった。これに500周年記念として企画された「アッシュバツハ」(Joseph Aschbach, *Geschichte der Wiener Universität*, 3 Bde., Wien 1865, 1877, 1888. Nachtrage zum Bd.3 bearbeitet von Wenzl Hart und Karl Schrauf, Wien 1898)が続くが、アッシュバツハの没後30年の間に刊行された第2巻、第3巻、第3巻補随の3冊の編纂と執筆に相当のエネルギーが費

やされ、これがヴィーン大学におけるマトリッケル編纂事業の立ち後れの原因となった。ようやく第二次世界大戦後の1956年に14世紀後半から15世紀前半までの第1巻(1377-1450)が出版された。その後、アルヒーフ館長のフランツ・ガル博士が中心となって活発な編纂事業が展開され、1967年から1975年までの8年間に、第2巻(1451-1518)、第3巻(1518-1579)、第4巻(1579-1659)、第5巻(1659-1689)の4巻が立て続けに刊行された。この間、ガル博士は「ヴィーン大学600年史」(Franz Gall, *Alma Mater Rudolphina 1365-1965. Die Wiener Universität und ihre Studenten*, Wien 1965)を上梓した。また1965年には壮大な大学創設六百周年記念式典が挙行され、式典の様子は「ヴィーン大学記念式典誌」(*Die Sechshundertjahrfeier der Universität Wien. Offizieller Festbericht im Selbstverlag der Universität Wien*, Wien 1965)に詳細に記録された。その後、マトリッケルの刊行は一時中断したが、1993年になって現館長のミュールベルガー博士が中心になって編纂され、17世紀から18世紀冒頭を扱う第6巻(1689-1715)が出版された。目下、18世紀前半を扱う第7巻(1715-1746)が印刷中である。(2003年刊行予定。)さらに、現在、第8巻(1746-1778)の編纂作業がおこなわれている。この間、1996年にミュールベルガー博士の「ヴィーン大学史概観」(Kurt Mühlberger, *Die Universität Wien. Kurze Blicke auf eine lange Geschichte*, Wien 1996, 2.Auflage, 2001)が出版され、本書は昨年増補版が出た。それだけ需要が高い訳である。また、1999年にはミュールベルガー博士とスタッフのトーマス・マイゼル氏(Archivar Thomas Maisel)の執筆になる「ヴィーン大学史入門」(*Rundgang durch die Geschichte der Universität Wien*, hg. vom Archiv der Universität Wien, 2.Aufl., Wien 1999)も刊行され、本書はさきの「概観」とともに「入門書」として有益である。しかし、その一方で「マトリッケル」第8巻の出版の目途は立っていないという。マトリッケル編纂は大学史研究の基本であるが、どの大学もその重要性を認めているとはいえ、現実には編纂事業が順調に進捗して刊行にこぎつけるには幾多の難関を突破しなければならない。とくに現在では出版コストが高騰し、図書館が購入できる程度の価格を設定することすら難しいという。ヴィーン大学など、オーストリアやドイツの大学のマトリッケルの出版を助成する日本の財団はないものであろうか。

<謝辞> 前回と今回の「大学文書館ニュース」の執筆にさいし、ヴィーン大学アルヒーフ館長のミュールベルガー博士から貴重な情報を得ました。また、印刷中に次の原稿のコピーも頂きました。Kurt Mühlberger, *Die Matrikel der Universität Wien*, Ms. 記して感謝の意を表します。

『大学史研究通信』バックナンバー希望者に頒布いたします

『大学史研究通信』第14号～現在発行号まで希望者に頒布いたします。80円×部数+郵送料(1部の場合90円、2部以上は120円)分の切手を同封の上、編集担当進藤宛までご請求下さい。ご連絡は最終ページをご覧ください。

編集後記

今年のヨーロッパの夏は「洪水」の話題でもちきりでした。チェコやドイツでは「世紀の大洪水」と呼ばれましたが、まさにそのとおりの大災害でした。チェコでは非常事態宣言が発令され、各国との国境が閉鎖されていました。そんななか、洪水対策に追われるブラハでも米国やイタリア、日本人の観光客が闊歩していたようです。積まれた土壌の前で記念写真を取る人間も多かったとか。現地ではこのような「火事場見物」人が救助活動を妨げている、と非難の的になっていました。緊急事態で、当初は地下鉄も無料で乗車できたようですが、非常事態宣言から4日後には、ついに地下鉄の一部が水没しました。モルダウを挟むブラハ市は分断され、なんとか一本の橋で移動が確保されていたが、それも路面電車のみ。こんななかでも観光名所は営業を続けており、したたかなところを見せていました。

この水は数日後ドイツへ押し寄せ、総選挙直前だった政治情勢に大きな影響を与えました。環境保護を訴える緑の党は、ここぞとばかりに自分たちの重要性を説きました。敗北必至といわれていた与党も矢継ぎ早に救援政策を打ちだし、結局は不利だとされていた選挙に勝利しました。ドイツ統一後10年間かかっておこなわれてきた東側の復興は、文字通り水の泡となりました。いろいろなことを巻き起こした大洪水、大学史とはなんの関係もありますが、話題提供まで。

(進藤修一記)

『通信』編集は事務局・進藤修一が担当しております。

連絡先〒562-8558 大阪外国語大学外国語学部 進藤 修一研究室内

TEL/FAX 0727-30-5355

EMAIL sshindo@post01.osaka-gaidai.ac.jp

sshindo@jnb.odn.ne.jp

『大学史研究通信』第33号は、11月30日発行予定です。

(3) できるだけ多くのひとに、よい論文を書いてもらい、『大学史研究』のクオリティをもっと上げたいというのが趣旨ですので、不掲載となった論文も、編集委員会のアドバイスや修正のお願いなどの後、次号に掲載されるばあいがあります。

(4) 原稿の送り先：

〒101-8301

東京都千代田区神田駿河台1の1

明治大学研究棟527

大学史研究会

別府昭郎・吉村日出東 宛

(5) フロッピー（一太郎、Word、テキストファイル）と打ち出し原稿を提出してください。

(6) 『大学史研究』の編集について、質問や分からない点があるばあいには、以下にご連絡ください。

〒101-8301

東京都千代田区神田駿河台1の1

明治大学研究棟527

大学史研究会 別府昭郎宛

E-mail: abeppu@isc.meiji.ac.jp

(文責：編集委員会 別府昭郎)

原稿募集

『大学史研究通信』第33号は2002年11月30日に発行予定です。会員諸氏の現在の研究紹介、文献案内、会員主催の行事のお知らせなど、どのようなものでも結構です。皆様からの投稿を心よりお待ちしております。原稿提出・お問い合わせ等は『通信』編集担当の進藤までお願いいたします。連絡先は最終ページをご覧ください。

住所・所属変更届のお願い

住所や所属（昇任・学位取得も含む）に変更のある会員は『通信』編集担当進藤までご一報くださるようお願いいたします。教授・研究のために海外にご滞在予定のかたも、海外での連絡先をお教えいただけましたら幸いです。ご連絡は最終ページにございます、進藤研究室宛にお願いいたします。

事務局からのお知らせ

2002年大学史セミナー開催について

1. 会場：明治大学駿河台校舎 研究棟4階 第1会議室

2. 日程

第1日目（2002年11月16日）

午後1時受付開始、午後2時開会、午後6時終了予定

シンポジウム「横尾壮英大学史学の学問的検証」

・シンポジスト3人による基調報告（一人30分）及び残り時間の討論。

※シンポジストは開催大学で交渉中。

懇親会（明治大学内もしくはその近辺）午後6時～

第2日目（2002年11月17日）自由発表

午前の部 午前9時開始、午後12時終了予定

午後の部 午後1時30分開始、午後5時30分終了予定

午後の部終了後、総会の予定

3. 出欠について：セミナー及び懇親会の出欠につきましては、後ほど事務局よりのはがきにて参加の問い合わせをいたします。

4. ホテル情報：仲介はいたしません。各自直接希望宿泊先にてご予約願います。

（ビジネスホテル）

神保町サクラホテル 03-3261-3939

千代田区神田神保町2-21-4 地下鉄神保町駅徒歩2分 6800円

セントラルホテル 03-3256-6251

千代田区内神田3-17-9 地下鉄神田駅徒歩1分・淡路町駅徒歩8分 6500円から

ホテル花汀 03-3255-1711

千代田区神田須田町1-21 地下鉄淡路町駅徒歩3分 7500円から

ホテルフレンド 03-3866-2244

千代田区神田佐久間町3-37 JR秋葉原駅徒歩3分 7650円から

東京ファミリーホテル 03-3293-3001

千代田区神田小川町3-24 JR御茶ノ水駅徒歩5分 7500円

ニューセントラルホテル 03-3256-2171

千代田区神田多町2-7-2 地下鉄小川町駅徒歩3分 6405円から

東京グリーンホテル御茶ノ水 03-3255-4161

千代田区神田淡路町2-6 JR御茶ノ水駅徒歩5分 8000円から

東京グリーンホテル水道橋 03-3295-4161

千代田区三崎町1-1-1 JR水道橋駅徒歩3分 8200円から

アルカディア市谷(私学会館) 03-3261-9921

千代田区九段北4-2-25 地下鉄市ヶ谷駅徒歩2分 8500円から

(格安ホテル・カプセルホテル)

大塚ステーションホテル 03-3918-7000

豊島区北大塚2-12-9 JR大塚駅徒歩0分 5000円から

入谷ステーションホテル 03-3872-7111

台東区入谷1-25-1 地下鉄入谷駅徒歩0分 5000円から(カプセルは2500円)

ツクバホテル 03-3834-2556

台東区元浅草2-7-8 地下鉄稲荷駅徒歩0分 5000円から

大塚サン・ファーストホテル 03-3944-4141

豊島区南大塚2-40-8 JR大塚駅徒歩2分 5250円から(カプセルは3200円)

(文責: 明治大学 別府昭郎)

(追記)

本通信の発行が遅れたため、ここに掲載しているプログラムは9月末日現在のものです。同封の「大学史研究セミナープログラム」をあらためてご覧下さい。(通信担当・進藤)

事務局からのお知らせ

2003年度大学史研究セミナー開催校の募集をいたします。開催を希望される大学の代表者は、事務局セミナー担当福石までお知らせください。また、セミナー開催校は、今年度総会の場決定いたしますので、合わせてお知らせいたします。

807-8586 北九州市八幡西区自由が丘1-1

九州女子大学文学部 人間文化学科 福石 賢一 宛

Tel.093-693-3335 (直通)

Fax.093-693-3361 (学科共通)

E-Mail: fukuishi@kwuc.ac.jp

編集委員会からのお知らせ

編集委員会では、編集方針を以下のように合意しましたので、会員の皆さんにお知らせします。また、ふるってご応募していただくようお願いします。

(1)『大学史研究』第18号を「横尾壮英先生追悼号」としたことに伴い、『18号』掲載予定の投稿論文を第19号に掲載することにしました。これに伴い、投稿期限を従来とは異なり、第19号の締め切りは10月31日とすることになりました。なお、『19号』の発刊予定は、2003年3月20日頃を予定しています。

(2) また、従来の投稿規程ではエントリーの後、締め切りまでに論文を投稿する形式を採っていましたが、20号以降の原稿は随時論文を受け付けることとなります。